

広島県中小企業団体中央会 2021年11月分情報連絡一覧表

※本調査は12月の見通しについても調査をしている関係上、特に新型コロナウイルスの世界的感染拡大に対する12月以降のコメントも掲載しています。

(食料品)

●食料品

広島県東部菓子商工業協同組合

消費者の購買意欲が上がっていないようだ。

原材料及び資材、人件費をはじめ経費が高くなり、収益を圧迫している。

中国醤油醸造協同組合

11月の出荷量は前月比7.4%増加、前年同月比6.0%増加となり、売上高は前月比8.4%増加、前年同月比5.6%増加となった。

(繊維・同製品)

●繊維工業

広島アパテック協同組合

見通しは依然としてよくない。技能実習生を扱っている企業は、水際対策が緩和されたと思ったらすぐに新変異株の影響で渡航制限がかかり、人員不足が顕在化してきた。技能実習生の中で、特に中国は帰国要望が強い。

本来の主力製品以外のものでも注文によっては対応している。

経営者の体調不良及び業績不振などが要因で、組合員1名が12月に廃業する予定である。

(一財) 広島県織物工業会

前期は状況が良かったが、後期に入るにつれて景況感が悪くなった。新型コロナウイルスは、収束の気配がみえたが、ここにきて新変異株が出現したので、経済活動が影響を受けるだろう。助成金が今後、縮小するのであれば、より厳しくなるだろう。

今年は、例年と比べ、寒いことが予想されるので、冬物の売れ行きに期待していたが、消費は伸びていないようだ。年末・年始の商戦がどうなるか見通しが立っていない状況である。

(木材・木製品)

●木材・木製品

福山木材協同組合

年始は忙しいが、春先以降は未定である。

広島県木材協同組合連合会

<全国>

- 令和3年10月の全国新設住宅着工戸数は78,004戸で前年同月比10.4%増加
- 季節調整済年率換算値では892千戸で前月比5.6%増加
- 利用関係別では、持家は26,840戸で前年同月比16.6%増加、貸家は29,822戸で同14.5%増加
- 分譲住宅は20,836戸で前年同月比0.6%増加、木造住宅は46,399戸で同12.0%増加

全体の住宅着工動向は前年同月比8カ月連続の増加で、約2年振りの2万8千戸越えとなったが、住設建材等の納期遅延による上棟先送り等も見られ、今後の動向を注視していく必要がある。

<広島>

- 10月の着工戸数は1,771戸で前年同月比9.7%増加
- 内訳としては、持家は530戸で前年同月比35.2%増加、貸家は779戸で同12.9%増加、分譲は462戸で同13.2%減少と、県全体の住宅着工動向は7カ月連続の増加となった
- 地域別では広島市が909戸で前年同月比7.8%増加、福山市は355戸で同13.4%増加、廿日市市は70戸で同133.3%増加の一方、東広島市は137戸で同3.5%減少、呉市は67戸で同23.9%減少、尾道市は54戸で同28.0%減少であった。

ウッドショックの影響による今年前半の木材不足はほぼ解消、大幅上昇した桧丸太相場も値下がり続き、プレカット工場は堅調な稼働が続いているが、工務店やビルダーの営業姿勢による受注格差や、合板不足、職人不足、木材の値上がりに伴う一部計画延期等への懸念もあり、引き続き今後の需給動向を注視していく必要がある。

ひろしま木材事業協同組合

国産材の県内原木市況について、スギは引き続き買い気が強く、相場を維持しており、11月下旬にかけては、本格的な冬の到来に備えて数量を確保する動きが見られ、若干強含みとなり県外からの買付も増加した。ヒノキは高騰していた価格が比較的緩やかに低下していたが、11月は下げ幅が大きく、3m柱取り丸太で10,000円/m³、4m土台取り丸太で7,000円/m³程度値下がりした。製品自体の値下がりも目立ちつつある。

プレカット工場は各社ホワイトウッド管柱の調達に困らなくなってきたおり、1時間程度の残業で操業している先が多い。仕事自体は12月も確保しており、1月前半までは見通しが立っている。

木材関係では合板の入荷不足が未だ解消されていない。

(印刷)

●出版・印刷・同関連

広島県印刷工業組合

少しずつ景況感が戻りつつあるように感じる。
時代の変化を見極め、変革をし続けるほかない。
プラス思考で新しいことに挑戦していきたい。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

前月から特に変化は無い。

自動車産業ほか、生産（仕事量）は回復傾向にある。一方で、原材料費の高騰、挽回生産に伴う人材不足の懸念などを踏まえると、下期に向けて予断を許さない状況である。

SDGsやESG、ガバナンス対応など視野を広く持ち、対応していくことが求められる。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

自動車は以前の減産の状況から11月は急な増産に入り、稼働率が上昇した。しかし、人手不足で計画的な増産体制に入れず、残業や休日出勤の対応となっている。

自動車関連の生産数変動が影響して、今後の見通しが不透明なために人員の配置がうまくいかない状況である。
原材料の値上げにより、採算性も悪くなっている。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況

R3年11月 2,880m³ (対前年比12.01%減少)

R3年10月 3,009m³

R2年11月 3,273m³

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

軋鉄鋼協同組合連合会

昨年よりは良いが、消費税増税前までの状況には戻っていない。

鋼材などの原材料費、電気・重油などの燃料代、人件費が上がり収益を圧迫している。

(一般機器)

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

今月の売上は、前月比30%増加、前年同月比60%増加となった。

スポット受注の増加、出荷時期の変動による影響が増加要因である。

受注の増加が継続中である。外需の欧米地域の増加が顕著で、その他地域も概ね回復傾向である。

(電気機器)

●電気機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合（電気機械器具）

今月の売上は前月比2%減少、前年同月比15%減少となった。

電子部品の価格が上昇傾向で、調達が難航する部品もあり、納品に影響が出た。特に半導体関連の部品については早めの調達が必要で、価格上昇にもつながっている。

内外需ともに回復傾向ではあるが、部品・材料の不足や価格高騰、併せて物流費の高騰によるコスト増加が顕著になっている。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具（自動車）

東友会協同組合

組合員の業況は、ビジネス依存度が高い主要顧客（マツダ）の業況（生産台数）に比例している。

コロナの影響による半導体の供給不振が解消され、11月からはフル操業を再開。今後は、まだ単発的な落ち込みリスクはあるが、ほぼコロナ前の水準に回復。さらには、来年初めから計画されている新車の生産準備を、人的資源も含めて行っている。

・11月の国内自動車販売台数は全需が352千台、前年同月比14.4%減少と5ヶ月連続での前年割れ。登録車も前年同月比13.4%減少と3ヶ月連続の前年割れ、軽自動車は同16.0%減少と6ヶ月連続で前年割れ、マツダ車は同16.9%減少と6ヶ月連続で前年割れとなった。ただし、減少幅は改善方向である。

・アメリカの10月度の全需は1,055千台で、前年同月比22.5%減少と3ヶ月連続で減少。マツダ車は前年同月比14.1%減少と、前年同月を2ヶ月連続で下回る結果となった。

・欧州の10月の全需は956千台で、前年同月比29.3%減少と4ヶ月連続で前年割れ。マツダ車は同15.1%減少と前年同月を2ヶ月連続で下回った。

・中国の10月の全需は2,333千台で、前年同月比9.4%減少と7ヶ月連続で前年割れ。マツダ車は同22.3%減少と7ヶ

月連続で前年割れとなった。

- ・これまでの半導体不足の影響による車両供給の滞りが継続している。マツダ車の10月の海外販売合計はほぼ全ての地域でマイナスとなり、74.9千台、前年同月比20.9%減少と3ヶ月連続の前年割れとなった。
- ・マツダ車の10月の輸出台数は、前年比66.8%減少と4ヶ月連続で前年割れとなった。
- ・マツダ車の10月の国内生産台数は、前年同月比56.5%減少と4ヶ月連続で前年割れとなった。

●輸送用機械器具（造船）

（一社）中国小型船舶工業会

中小造船業については、前月と大きな変化は無い。

中国地区造船協議会

県内、2500総トン以上の令和3年10月の船舶建造許可実績は0隻であった。（前月1隻、120,200総トン。前年同月6隻、284,399総トン。）

（卸売業）

●卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

消費マインド改善の期待が高まり、食品、繊維部門で一部売上回復は見られるものの、雑貨・資材・食品・繊維の各部門とも、逸失利益挽回の水準には至っていない。足許の原油など原材料の価格高騰の影響を受けて、荷動きや具体的な設備投資（更新）への取組みは本格化していない。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

商品不足が、業界で一番の問題となっている。

原因は半導体不足と海外の新型コロナウイルス感染症拡大によるロックダウンの影響である。

●卸売業（畳・敷物）

広島県畳製品商業協同組合

県内産い草の植え付けが本格化し、生産農家は製織をとめて植え付けを行っている。

国産の畳表の相場が上昇傾向で、非常事態宣言解除の効果が表れてきている。

JAS畳表については、前年対比128%と需要増で推移している。

びんご特撰とJASの合計扱い量は、前年対比114.6%で推移している。さらに、年末にかけて業者も訪問営業などを行い、取り扱い量が増加する見込みである。

（小売業）

●各種商品小売業

協同組合三次ショッピングセンター

新型コロナウイルス感染者数が落ち着き、客数が伸びており、11月は6割の店舗が前年売上を上回った。特に食品、衣料品の売上がアップした。

新変異株の感染拡大が心配であるが現時点では昨年より状況が良く、今の好調を維持するため継続してセールを実施する計画である。

市内共通のプレミアム付き商品券が11月末で利用終了した。今後は政府の特別臨時給付金と三次市とペイペイの20%還元キャンペーンでの地域経済の活性化に期待したい。

広島生鮮三品連絡協議会

中央市場11月の取扱高は水産部では前年を割り込み、青果部では相場高で前年1割弱増加で推移している。

新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いているが、一部の観光地を除き、外食等に対し世間は慎重な空気感に満ちている。家内での飲食が定着し、飲食・宿泊関連業者の業績回復には時間がかかる見通しである。

原油高の影響から、一般食品の値上げ、魚価の高止まり傾向が続き、収益状況の厳しさが増加している。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

今月の販売実績は前年同月比17%減少となった。

商品別では、薄型テレビ同14%減少、DVD同28%減少、冷蔵庫同24%減少、洗濯機同10%減少、IHクッキングヒーター同4%増加、エコキュート同66%減少、エアコン同8%減少、炊飯器同16%減少、空気清浄機同44%減少となった。

新型コロナウイルスの状況が良くなり営業活動は戻りつつある。政府で給付金支給方法を現在検討中であり、期待感が出てきた。

一部商品は半導体等の部品不足による商品供給面が改善されず、目処がたっていない。

新変異株が広がり、年末商戦へ影響が出ないことを祈っている。

●その他の小売業（燃料）

広島県石油商業組合

原油価格の動向としては若干の下げ基調となったものの、まだまだ高い水準が続いている。そのせいか、小売価格への転嫁が難しい模様である。冬の必需品ともいえる灯油についても、例年に比べて薄利での販売になっている模様である。

（商店街）

●商店街（各種商品小売業）

広島金座街商店街振興組合

持ち直しの傾向が見られるが、消費の伸びは少ない。

呉本通商店街振興組合

呉市の新型コロナウイルス感染者は10月を最後に発生しておらず、11月2日以降は入院患者もいない状況であり、市内の事業者は、飲食店をはじめとしてほぼコロナ前の営業状況を取り戻している。ただ、家族営業の所を除く市内の飲食店の多くで、感染拡大に伴い雇い止めしたアルバイト等の人員が戻っておらず、人手不足の状況が続いている。さらに、新変異株の発生を受け、年末・年始における忘年会、新年会なども今後の状況次第となるだろう。

（サービス業）

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は、前月比9.0%減少、前年比1.9%増加。

車検場収入は、前月比7.1%減少、前年比1.7%増加。

重量税・登録印紙の売上は、前月比11.1%減少、前年比13.1%増加。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

年末の駆け込み需要もあり、全体的に稼働している。

新変異株の不安要素もあるが、若干増加傾向にある。

●警備業

広島県警備業協同組合

人手不足が続いている。

●情報サービス

（一社）広島県情報産業協会

電子部品の入手難が続いている。長いものでは1年以上待つものもある。

（建設業）

●工事業

福山地区電気工事業協同組合

11月分の工事受付件数は前月比0.8%増加、前年同月比20.6%増加となった。

11月に太陽光発電の固定価格買取制度の締め切りがあったため、駆け込み申込の影響で増加した模様である。

広島県室内装飾事業協同組合

カーテン、敷物、壁装クロスの3品目合計について、11月度は前月比27.9%減少、前年同月比19.6%減少、前年累計比も32.3%減少と引き続き厳しい状況が続く。件数はそこそこあるが、1件で大きな物件が少ない。

今後のコロナ禍の状況見極めがつき難く、物件によっては着工の延期や凍結など、未だコロナ禍以前の状況に戻っていない。年度内は低水準で推移していく見込みである。

（運輸業）

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

11月の荷動きは、新型コロナウイルス感染者数が減少したため、経済活動も活発になると期待したが全体的に悪かった。

自動車関連は半導体が入荷したため工場の稼働状況は改善し、荷動きは徐々に活発であった。

運賃は前年同月に比べ若干上昇し、売上も増加したが、軽油価格の上昇による影響が大きく、収益状況は悪化した。

松永地区トラック事業協同組合

11月の売上高は、前月比では大きな変化はなく、前年同月比では増加となった。

先月と同じように軽油価格が高騰しているため、販売価格（運賃）の値上げを得意先に要請したいところであるが、運賃値上げは、同業他社と比較されかねないため、組合員も慎重になっている。今後の見透しが不透明な中、運賃値上げを早急に実施しなければ、働き方改革や労働環境の整備に着手できず、その間に運転者の高齢化が更に進むことになる。

中国カーゴ軽運送協同組合

11月後半から、運送もやや動き出し、良い傾向である。

少し先行きに期待が出てきた。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

船員の高齢化が進み、若年船員の育成が進まないなど、船員不足の状況が続いている。

また、運賃・用船料の改善が依然として見られない状況である。

（その他）

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前年比・前年同月比は特に変化無し。

12月、1月は公的評価作業によりやや多忙になる予定である。

依然として、旧市街地の建売用地の供給不足から素地価格（業者仕入れ値）が上昇傾向にある。